

# Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチでスヌーピングするマルチキャスト リスナー ディスカバリ ( MLD ) の設定

## 目標

マルチキャストは 1 ホストからグループで『Hosts』を選択されるにデータパケットを送信するネットワーク層手法です。下層で、スイッチは 1 ホストだけそれを受け取りたいと思っても、すべてのポートのマルチキャストトラフィックをブロードキャストします。スヌーピングするマルチキャスト リスナー ディスカバリ ( MLD ) が望ましいホストにだけ IPv6 マルチキャストトラフィックを転送するのに使用されています。

MLD スヌーピングがスイッチで有効になるとき、インターフェイスで接続される IPv6 ルータとマルチキャストホストの間で交換される MLD メッセージを検出します。それはそして IPv6 マルチキャストトラフィックを制限する維持し、それを受け取りたいと思うそれらのポートに動的に転送します表を。

マルチキャストグループの設定は MLD スヌーピングの設定の前に必要です。マルチキャストグループ設定について学ぶために [Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチの IP マルチキャストグループの記事](#)、[作成および設定](#)を参照して下さい。

この資料の目標は Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチの MLD スヌーピングを設定する方法を説明することです。

## 適当なデバイス

- Sx500 シリーズ スタック 可能 スイッチ

## [Software Version]

- 1.3.0.62

## MLD スヌーピングの設定

ステップ 1.スイッチの Web コンフィギュレーションユーティリティへのログインはマルチキャスト > MLD スヌーピングを選択し。

注: ブリッジ マルチキャスト フィルタリングおよび MLD スヌーピングはスイッチで MLD スヌーピングを行うために有効にする必要があります。

呼び出します。スイッチがマルチキャストトラフィックを受信するように要求したホストを判別することを可能にするように MLD スヌーピング Status フィールドの **Enable** チェックボックスをチェックして下さい。

### MLD Snooping

MLD Snooping Status:  Enable

Apply Cancel

MLD Snooping Table						
	VLAN ID	MLD Snooping Operational Status	Router MLD Version	MRouter Ports Auto Learn	Query Robustness	Query Interval (sec.)
<input type="radio"/>	1	Disabled	v2	Enabled	2	125
<input type="radio"/>	2	Disabled	v2	Enabled	2	125

Edit...

ステップ 3.設定を保存するために『Apply』 をクリックして下さい。

注: MLD スヌーピングは ( A VLAN VLAN ID およびポート割り当てによって手動で設定されるスタティック VLAN ) でだけおよびないダイナミック VLAN ( 接続されるときスイッチによってホストに動的に割り当てられる A VLAN で許可されます。このオペレーションはホストの物理アドレスが前にスイッチのデータベースで保存されるように要求します ) 。

ステップ 4.望ましい VLAN ID の Radio ボタンをクリックし、VLAN の MLD スヌーピングを設定するために『Edit』 をクリックして下さい。

### MLD Snooping

MLD Snooping Status:  Enable

Apply Cancel

MLD Snooping Table						
	VLAN ID	MLD Snooping Operational Status	Router MLD Version	MRouter Ports Auto Learn	Query Robustness	Query Interval (sec.)
<input checked="" type="radio"/>	1	Disabled	v2	Enabled	2	125
<input type="radio"/>	2	Disabled	v2	Enabled	2	125

Edit...

編集 MLD スヌーピングウィンドウは現われます:

VLAN ID:

MLD Snooping Status:  Enable

---

MRouter Ports Auto Learn:  Enable

✳ Query Robustness:  (Range: 1 - 7, Default: 2)

✳ Query Interval:  sec. (Range: 30 - 18000, Default: 125)

✳ Query Max Response Interval:  sec. (Range: 5 - 20, Default: 10)

✳ Last Member Query Counter:  Use Default  
 User Defined  (Range: 1 - 7, Default: 1)

✳ Last Member Query Interval:  mS (Range: 100 - 25500, Default: 1000)

Immediate leave:  Enable

ステップ 5. ( オプションの ) は VLAN ID ドロップダウン リストから望ましい VLAN ID を選択します。

ステップ 6 マルチキャスト トラフィックを送信 するように選択された VLAN の下のどのホストが要求したか判別するために MLD スヌーピング ステータスの **Enable** チェックボックスをチェックして下さい。

マルチキャスト ルータが接続されるポートのオート学習を有効に するステップ 7. ( オプションの ) は、オートが学習する MRouter ポートの **Enable** チェックボックスをチェックします。

VLAN ID:

MLD Snooping Status:  Enable

---

MRouter Ports Auto Learn:  Enable

✳ Query Robustness:  (Range: 1 - 7, Default: 2)

✳ Query Interval:  sec. (Range: 30 - 18000, Default: 125)

✳ Query Max Response Interval:  sec. (Range: 5 - 20, Default: 10)

✳ Last Member Query Counter:  Use Default  
 User Defined  (Range: 1 - 7, Default: 1)

✳ Last Member Query Interval:  mS (Range: 100 - 25500, Default: 1000)

Immediate leave:  Enable

ステップ 8 クエリ ロバストネス フィールドでは、応答しないホストを削除する前にスイッチが送信 すること MLD の数を示すために 1 から 7 まで及ぶロバストネス値を問い合わせます入力して下さい。

ステップ 9 : クエリ範囲フィールドでは、30 から 18000 秒まで及ぶ、そのあとでスイッチ

はクエリ メッセージを送信 します タイムインターバルを入力して下さい。

ステップ 10： クエリ最大応答間隔 フィールドでは、一般のクエリに挿入される最大応答コードを判別するのに使用する遅延を入力して下さい。 5 からの 20 秒への時間 範囲。

ステップ 11.ホスト グループのメンバーが問い合わせられるべきインターフェイスでないとスイッチが仮定する前に送信 されるグループ別クエリー メッセージの数を定義するために Query カウンター最後のメンバーの望ましい Radio ボタンの 1 つをクリックして下さい。

- クエリー ロバストネス フィールドで定義される値に値同等を default —使用して下さい。
- ユーザが定義する— 1 からユーザが定義するフィールドの 7 まで及ぶ目的の値を入力して下さい。

ステップ 12： 最後のメンバー クエリ範囲フィールドでは、グループ別メッセージから応答を受け取るために待つようにスイッチのためのタイムインターバルを入力して下さい。 100 からの 25500 ミリ秒への時間 範囲

ステップ 13： ( オプションの ) MLD トラフィックをブロックするためにメンバー ポートに属さないスイッチにかかった時間を減少させるために、即時許可フィールドの **Enable** チェックボックスをチェックして下さい。

ステップ 14： [Apply] をクリックして設定を保存します。